

十年一昔

(その二十二)

〱栗山通学路界限〱

栗山方面の子供さんが小学校に通うのには栗山新田から本町方面に真直ぐに抜ける路と、沢田、庚申附近から田圃の中を通る路等を利用していきます。この路は一号用水路を渡る手前で一本の路にまともな路と呼んでいます。

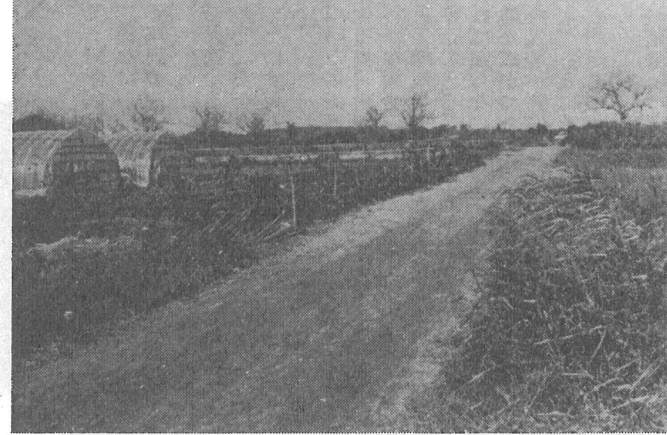
この辺りは山林の開墾、用水路の改修、基盤整備等が度々行われなりましたので昔の様子は大分変わってきています。まだ松林や杉木立が此処彼処に点在していた昔、と言ってもまだ十五年前のことです。その松林にいちも草やもうせん苔の群生しているの

小学校の或先生が発見してその分布状態等を調べ始めたことかありますが、山林が開墾されたり、その先生が転任されたりしたこともあってそのままになってしまいました。登下校の子供さんが「いしも草があるよー」等と話し合っているのを見かけたのもその頃ののことだったと思いま

又特に変わったという印象が残っているのは通学路が一本になり一号用水路にかかる手前の左側にあった松の並木だと思えます。何時か本欄で樹木シリーズを取扱っていた時に横芝中学校の庭の隅にある横

の樹が見る場所によってお互いの幹が重なり合い都度本数が変わって見えるので学校の子供さんはこれをお化け楨と呼んでいると紹介しましたがお化け〇〇というのはこの松並木がその元祖だったのです。この松並木は並木というよりは立木と言った感じで七本程が幹を連ねていたのです。これが歩いて行くうちに幹が交差ししてその本数が増えるので茶目気のある子供さんが「お化け楨」と呼んだのが由来だといふことでは。「あつ三本きりないぞー」「こっちは五本だー」等と叫びながら嬉

食べさせたりしたこともその頃の人達には楽しい想出として残っていると思えます。その懐かしい場所も望見する本町方面の森や林のたたずまいと一号用水路の桜並木に僅か昔の面影を止めるだけで通学路そのものには昔のよすがは殆んど見当りません。そして農耕地の改良発展の喜びの中に何時か想出もうすらいでゆくことでしょう。



去る九月十四日、栗山のぶどう園で身体障害児のぶどう狩が行われました。この催しの主は栗山南部で七〇アールのぶどう園を営む高橋三郎さん(54才)です。手足の不自由なために楽しみにして来たぶどう狩も出来ず土産を

もらって帰る可愛相な子供達を昨年東金で見た高橋さんは、この子らに木から取るぶどう狩の楽しさを是非あじわわせてやろうと考えていたところ、学校側からこの要望があり実を結んだということ

す。台風のあとでぶどう棚の下はまだじめじめしてました。でも子供達にはドロまみれになりながらも、言葉にはならぬ声で喜こんでいる姿を目の当りに見て本当によかったと高橋さんは話してくれました。またこれからもこのよう

身障児に愛の手 栗山の高橋さん

から来た子供さん達もこの並木にさしかかると何時か争いを止めて、「三本だー六本だー」と一緒になって戯れ始めたりしたのです。またこの松の根元辺りには猫や犬の仔が捨てられていて学校の子供さんが自分の弁当を残して来て

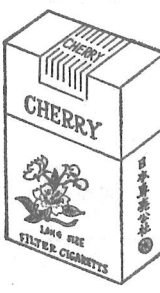
写真、上は昭和三十五年頃のもので七本の松並木が三本に見えています。並んでいる子供さん達は既に二十四、五才になっていています。まだ杉の木立も見えています。写真、下は昭和四十六年十月撮影のもので、よく見ますと、背景になっている一号線の桜並木とその向うに山並の様に続く本町方面の森や林にはまだ昔の面影が残っています。(小沢給食センター所長 寄稿)

婦人の

交通指導員

選任される

横芝町交通安全対策協議会では、激増する交通事故に対処するため、交通指導員の増員をしました。伊藤芳枝さん(三軒家)、太田計枝さん(町原)の二名が九月及び十月付で町交通指導員として協議会長から委嘱されました。



たばこは町で
買いましょう。